【活動報告】

福井県・東京都公文書館共催
東京文化財ウィーク 2016 参加企画展
「東京府知事　由利公正とその時代」

東京都公文書館　史料編さん担当
齋藤　洋子

１　開催の経緯

東京都教育委員会は、文化の日を中心に都内全域の文化財の公開や文化財に関わる様々な企画事業を実施しており、その中で都民の方々が文化財に触れる機会を提供する「東京文化財ウィーク」を行っている。平成 28 年度は、10 月 29 日（土）から 11 月６日（日）の日程で行われた。東京都公文書館でも、文化財ウィーク参加企画展として、福井県との共催展示「由利公正とその時代」を 10 月 21 日（金）から 11 月 18 日（金）までの間、当館閲覧室展示スペースにおいて開催した。

福井藩出身の由利公正は[※1]、維新政府の財政担当として手腕を振るった後、第４代東京府知事として黎明期における東京府の礎を築いた一人である。しかし現在、幕末・明治期に活躍した人物としてメジャーな存在とは言い難い。その功績に反して、一般的にあまり知られていないといっても過言ではないだろう。

そこで本展示では、福井県に残る由利関係の史料と、当館が所蔵する重要文化財「東京府文書」を中心に、由利の足跡をたどり展示紹介することとした。

以下、日付は和暦を優先し、明治５年 12 月の改暦以前は旧暦とした。

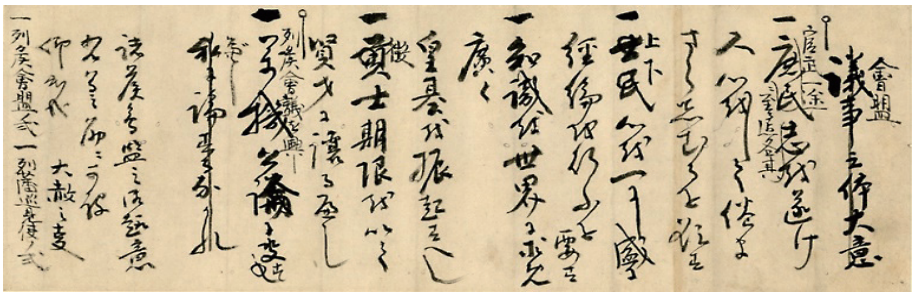
２　展示構成と内容

本展示は、Ⅰ　維新政府での活躍、Ⅱ　東京府知事由利公正、Ⅲ　東京府文書にみる由利公正の３部構成とした。以下、それぞれの概略を述べることとする。なお、本稿末に展示史料一覧と展示パネル一覧を附した。本文中の（史料番号）は展示史料一覧の番号に、（パネル番号）は展示パネル一覧の番号に対応するものであるので、適宜参照されたい。

〈Ⅰ　維新政府での活躍〉

本コーナーでは、由利が維新政府に出仕することになった経緯と出仕後の活躍を紹介した。

由利の生涯に大きな影響を与えた人物といえば、横井小楠と坂本龍馬を抜きに語ることは出来ない。幕末、福井藩主松平春嶽に賓師として招かれ、福井藩政を指導した小楠の薫陶を受け、由利は藩財政の立て直しに成功し頭角をあらわした。そして、小楠譲りの由利の財政論に感銘を受けた龍馬の推薦によって、維新政府に出仕することとなったのである。本展示では、大政奉還後に福井を訪問した龍馬が、由利と面会した後にその感想を綴った後藤象二郎宛て書翰を紹介し、龍馬が、維新政府の財政担当者は由利を置いて他にない、と考えていたことなどを示した（史料番号１）[※2]。



由利公正「議事之体大意」（史料番号４）

慶応３年（1867）12月18日、由利は「徴士参与」に任ぜられ新政府に出仕し（史料番号２）、23日には「御用金穀取扱之儀取締」を命じられた（史料番号３）。新政府の財政担当となった由利は、会計基立金（御用金）の調達にあたり、まず天下に大義を明らかにして方針を示すべきであると考え、５か条からなる「議事之体大意」を記した（史料番号４）。「議事之体大意」は、福岡孝弟（たかちか）、木戸孝允（たかよし）により修正加筆され、明治日本の国是であった「五箇条の御誓文」へと結実した。その過程が一目でわかるように、由利の「議事之体大意」、福岡孝弟「会盟」、木戸孝允「誓」、有栖川宮幟仁親王御筆「五箇条御誓文」を起草順に紹介し、由利の記した「議事之体大意」が、「五箇条の御誓文」の原案となったことを示した（パネル番号６）。

その後由利は、政府内の反対意見を押し切り、金札（太政官札）を発行する。しかし、新政府に対する人々の信頼度が低かったため広く流通せず、また額面通りにも通用しなかった。さらに、太政官札を手にした外国商人からも不満が高まり外交問題にまで発展し、由利は、失意のうちに政府を去ることとなった。

なお、本コーナーでは、福井県が作成したＤＶＤ「民富めば国富む」の閲覧席を設けた。本展示では、維新政府出仕後の由利にスポットを当てたため、幕末福井藩における事績について、具体的に紹介することはできなかった。その点ＤＶＤは、幕末・維新期の活躍を紹介する内容となっており、由利の前半生を知るという本展示の不足部分を補完し得る有益なツールとなった。

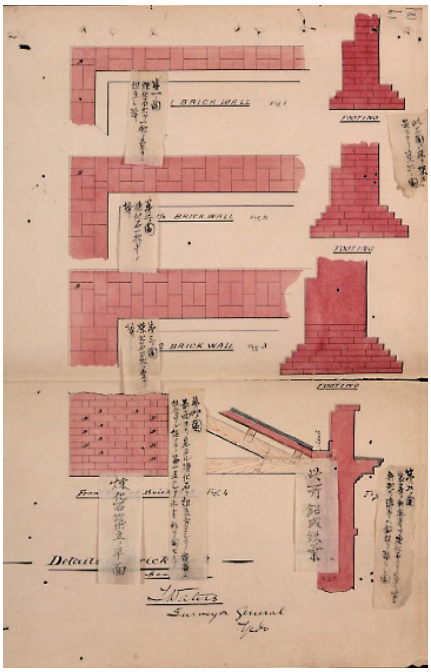
〈Ⅱ　東京府知事由利公正〉

明治２年（1869）２月、病気療養を理由に福井藩に戻った由利は、５月に参与職を辞した。その後は、藩主松平茂昭の意向をうけ藩の財政整理に尽力していたが、明治４年（1871）７月23日、第４代東京府知事に就任した（史料番号５）。

このコーナーでは、まず「由利府政下の東京」と題し、由利が府知事時代の主な出来事を年表で示すと共に、その中から時代背景を反映した４つの事柄（府下に邏卒を設置、招魂社境内でサーカス興行、東京銀行設立を計画、旧武家地に新たな町名をつける）を紹介した（パネル番号９）。

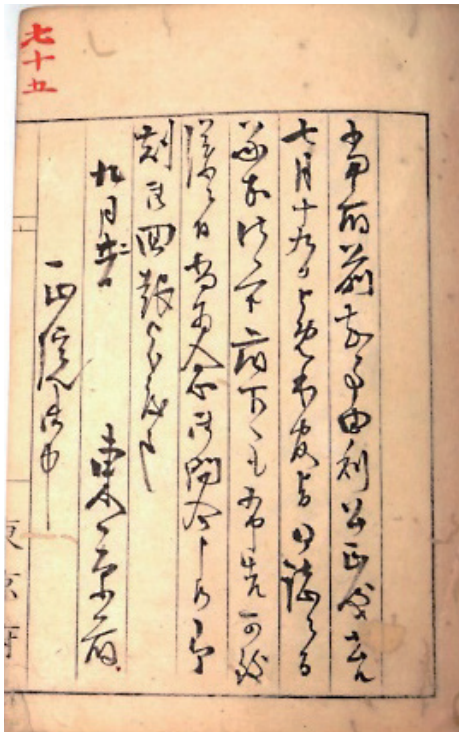
次に、由利府政下で生じた大事件である、明治５年（1872）２月に銀座一帯を襲った大火を取り上げた。この大火後、由利は府下一円を不燃都市にしようと考え、まず焼失した銀座

の町に煉瓦街建設を開始した。煉瓦建築の設計を担当したのは、御雇外国人のウォートルス（Thomas James Waters）であった。東京府文書には、銀座煉瓦街建築関係史料が多数残されているが、その中からウォートルスが煉瓦の積み上げ方法を示した図面を展示した（パネル番号 11）。また、この大火に際して、当時大蔵省に出仕していた渋沢栄一が一府民として東京府に募金を申し出た自筆書翰を紹介した（史料番号６）。完成した銀座煉瓦街は、文明開化の象徴として、しばしば錦絵などに描かれた。本展示においても、来館者の方々が徐々に欧米文化が移入されつつある当時の東京の雰囲気を少しでもイメージできるよう、煉瓦街完成後の銀座の街を写した写真と、銀座煉瓦街を描いた錦絵を拡大したパネルを作成、展示した（パネル番号 12 ～ 15）。



家屋建築方図面　ウォートルス原文
（パネル番号 11）

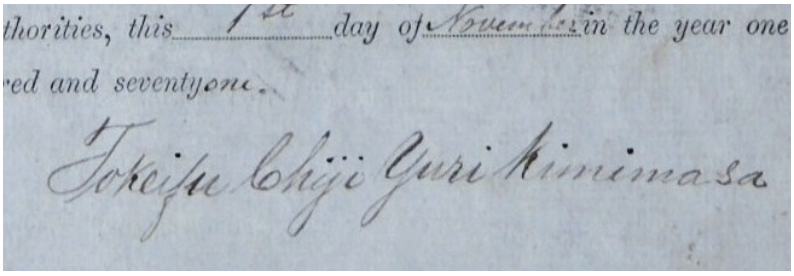
最後に、由利の洋行と免官をめぐる背景を考察した。明治５年５月、由利は岩倉使節団への随行を命じられ、15 日に横浜を出航した。現職の府知事である由利が随員に加えられた背景には、銀座煉瓦街建設計画をめぐる大蔵大輔井上馨との対立があったと推測される。後年、由利と井上それぞれが、銀座煉瓦街の発案者は自分であると語っているように、両者とも銀座を煉瓦造りの不燃都市として再建しようという方針では一致していたが、その方法においては、道幅、災害救助募金の使途、建築を行う会社組織の設立方法など、ことごとく対立した。その要因の一つには、東京銀行設立の可否をめぐる感情の対立があったとも言われている（パネル番号９：東京銀行設立を計画）。折しも、岩倉使節団に副使として参加していた大蔵卿大久保利通が、条約改正交渉に必要な全権委任状を得るために一時帰国した。井上は、建設計画が進展しない現状を、由利を洋行させることによって打開しようと上司である大久保に諮り、その結果、由利が大久保に随行することとなったのであろう。それは、由利の洋行後、６月には建設事業が東京府建築掛から大蔵省建築局へと移管されたことにも表れている。一方、由利が洋行命令に憤慨していた様子はうかがえない。むしろ、帰国後の府政に活かそうと、訪問各国で積極的に都市行政を視察している姿を、彼がアメリカから東京府に宛てた書翰によって示した（史料番号８）。しかし、由利の洋行体験が府政に反映されることはなかった。なぜなら、出発から約２カ月後の７月 19 日、府知事免官が発令されたからである。この免官には、罷免理由が判然としないことや、由利の出発からわずか 10 日後には、大久保一翁が府知事に就任し、由利の免官が発令されるまでの約２か月間、府知事が２人存在したことなど、不可解な点が多い。そのうえ、由利の免官から１


東京府前知事由利公正７月 19 日免本官の旨問合の義即刻回報　東京府より正院９月２日（資料番号９）

カ月以上経過した９月２日、太政官日誌でその事実を知った東京府は、「府下へも布告可致儀ニ付」と正院に真偽を問い合わせていた（史料番号９）。つまり、９月２日の時点まで、東京府職員は由利の府知事免官を知らず、府民にも布告されていなかったということになる。そして、史官から「日誌面之通相違無之」と回答を受けると[※3]、府庁内では書記掛が諸掛宛てに「由利知事殿去ル七月十九日被免本官候旨史官より被相達候間、此段御達申候也」と通達している[※4]。こうした史料は、由利の免官が異例であったことを物語っている。

〈Ⅲ　東京府文書にみる由利公正〉

従来由利をとりあげた伝記や研究は、そのほとんどが、幕末維新期を対象としている。そのため、府知事辞任後の活動についてはあまり知られていなかった。本コーナーでは、東京府・東京市文書の中から由利に関係する史料６点を選び、これまであまり紹介されてこなかった由利の新たな一面を示した。



永代借地権抹消に関する件（パネル番号 23）のサイン部分を拡大

１点目は、由利が府知事時代にローマ字で“Yuri Kimimasa”と署名した書類である（パネル番号 23）。福井県では「公正」の名が、由利の父である義知が松平春嶽から拝領した「公正無私」の書幅に由来すると想定されること、由利家では「こうせい」と呼ばれていることなどから、「こうせい」が正しいとされてきた。しかし、本人が“Kimimasa”と署名している書類が残されていることから、少なくとも由利は、通称では「きみまさ」と名乗っていたと考えられる。

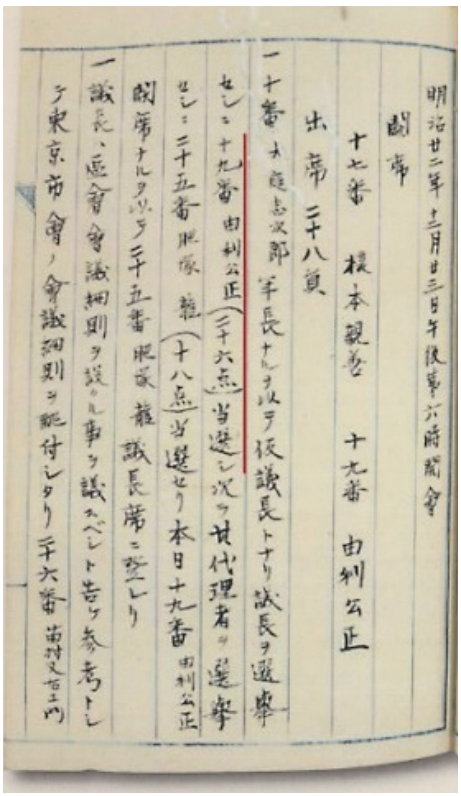
２点目は、由利が煉瓦家屋建築を建築掛へ申し入れた書類である（パネル番号 24）。明治５年２月の大火により、京橋区木挽町にあった由利の私邸も全焼した。前述したように、大火後銀座では煉瓦街の建築が開始されるが、煉瓦は地震の多い日本には適さないなどの反対の声も少なくなかった。そのため、自らが率先して自邸を煉瓦建築にしていたことを紹介した。あわせて、由利が火災の翌日、東京府に自宅全焼を届け出た書類と（史料番号 10）、同時期に銀座で建設された煉瓦家屋の図面を展示した（史料番号 11）。

３点目は、由利が架橋に献金を申し出た書類である（パネル番号 25）。幕末、足羽川の南岸毛矢町に居住した由利は、人々が両岸に渡した綱を手繰って往来する「操り舟」を用いていることの不便と危険を藩に申し入れ、幸橋の架橋に尽力した。この体験から、橋の重要性を熟知していたため、明治以降も架橋へ献金や出資をしている。本展示では、明治７年(1874)５月、木挽町２丁目から築地２丁目に設置予定の仮橋建築に対し、他３名とともに 40 円の献金を申し出たことを紹介した。また、由利が多額の出資をした、明治 11 年完成の昌平橋に関係する史料がつづられた簿冊を展示した（史料番号 13）。

４点目は、山一組が東京府に提出した、銑（せん）の試験結果報告書である（パネル番号 26）。山一組は、明治７年、由利が三浦安と共同で、群馬県甘楽郡中小坂村（現下仁田町中小坂）の鉄山を購入し、採掘事業に着手するにあたり設けた会社である。同社は、明治９年に東京府から瓦斯灯用の鉄管を大量に受注し製造を開始していた。そのため、中小坂鉄山の鉱石の試験結果を東京府に報告したのであろう。しかし、負債が嵩み経営が成り立たたなくなったため、11 年に政府が４万円余で買収し、事業は工部省へと移譲された。

５点目は、由利が経営していた牧場の絵図面である（パネル番号 27）。由利は、明治９年７月から５年間の期限で（その後５年延長）、板橋の旧加賀藩下屋敷跡地の一部９万９千坪余を、牧場として借用した。11 年には洋牛 41 頭（牡 15 頭、牝 26 頭）、羊 11 頭を飼育し、年間の収乳量は 60 石余、その売上として 691 円 33 銭２厘を計上している※5。

６点目は、赤坂区会議事録である（パネル番号 28）。由利は、明治 22 年（1889）11 月の赤坂区会議員選挙に当選し、ついで 12 月 23 日に実施された赤坂区会で議長に選出された。「赤坂区会議事録」には、当日の出席者 28 名（議員総数 30 名、欠席者２名の内１名は由利）で、由利が「26 点」と、圧倒的多数を得て議長に選出されていることが記録されている。これまでの由利の伝記や年譜では、赤坂区会議長就任を明治 24 年としている。しかし、「赤坂区会議事録」の記述から、明治 22 年 12 月であることが明らかとなった。



赤坂区会議事録
（パネル番号 28）

３　配布資料

今回の展示は、福井県との共催ということもあり、福井県と当館が作成したリーフレットなどを数種類配架した。

まず、福井県作成のものとしては「福井幕末ハンドブック」「福井を輝かせた人々～幕末・明治の偉人達～」、「福井の幕末明治　歴史秘話」第１号～第 19 号、「越前・若狭観光情報マップ福井県」である。次に、当館が作成した配布資料は、展示内容を紹介したリーフレット「東京府知事由利公正とその時代」、展示資料を一覧表にした「展示資料リスト」、「東京都内にある由利公正ゆかりの地」の３点である※6。

４　来館者アンケートの分析

本展示期間 20 日間の来館者は 383 名を数えた。そのうち、アンケートに回答した方の年齢層をみると、10 代１％、20 代５％、30 代８％、40 代 13％、50 代 12％、60 代 28％、70 代以上 33％であり、50 代以上が７割を占めた。若い世代が少ない最大の理由は、平日のみの開館、かつ 17 時閉館という点であろう。

展示内容については、大変良かった 57％、よかった 38％、ふつう３％、もう少し２％と、全体的には好評を得た。

印象に残った史料については、五箇条の御誓文の起草過程と、由利の免官に関するパネル及び史料という回答が多かった。五箇条の御誓文については、由利の「議事之体大意」だけでなく、福岡の「会盟」、木戸の「誓」そして「五箇条の御誓文」と起草順に展示したことで比較してみることができ、より印象に残ったものと思われる。また、由利の免官については、大蔵大輔井上馨との対立という構図が、現代における国と地方自治体との関係を想起させる部分があったようで、由利へ同情を寄せる声が少なくなかった。

当館については、知っていた40%、利用したことがある14%、今回初めて知った46%であり、ほぼ50%の認知度であった。今回の企画展を何で知ったかについては、図書館などの諸施設に置かれていたチラシ31%、当館入口・門扉などに掲示されているポスター17%、当館ホームページ11%、広報東京都10%、バス車内広告８%、知人からの紹介７%、駅ポスター３%、テレビ・新聞・ラジオ３%、その他10%であった。

５　成果と今後の課題

冒頭に記したように、本展示の目的は、維新政府で活躍し、第４代東京府知事を務めた由利公正の足跡を紹介することであった。そして、この目的の背景には、由利の功績が広く知られていないという現状があった。それを裏付けるように、アンケートの「由利公正をご存知でしたか？」の設問に対する回答は、知っていた56%、名前は聞いたことがある18%、知らなかった26%と、４割以上の方々が由利の功績についてほとんど知らなかった。しかし前述したように、展示の感想としては、95%の方々から、大変良かった、もしくは良かったとの回答を得ることができた。そして、「一般にとりあげられることがほとんどなく、今回いろいろ知れてとても良かった」、「名前は知っていたが業績はまったく知らなかった。この展示で彼の残していったものを知ることができて良かった」、「由利公正という人物を初めて知った」といった声も多く、「由利の足跡を紹介する」という目的は果たすことができたと考える。

展示内容についても、「五箇条の御誓文の起草過程に関係する文書を読み比較できおもしろかった」、「府知事由利公正の数々の功績を知ることができた」、「東京府知事の約１年間はあまりにも活躍しすぎて上とぶつかってしまい敗れる結果となり不本意だったろうとヒシヒシと感じる」、「由利の足跡を公文書の中からもとらえることができおもしろい企画だった」など、それぞれのコーナーでこちらが意図した点が伝わったようである。

一方で、「史料はパネルが多い点が残念」、「もう少し原史料が見たい」、「もう少し規模の大きい展示だとより楽しめる」といった感想があった。展示コーナーが閲覧室内に設けられているという当館の構造上展示規模の拡大は難しいが、展示ケースの配置などを工夫し、原史料を１点でも多く展示できるようにしていきたい。また、「由利の幼年期はどうであったか」という疑問や「生涯にわたる年表が欠落していたのは残念」という指摘もあった。この点についても、展示スペースとの兼ね合いで今回は明治維新以降の由利を対象としたが、略年譜のパネルを展示冒頭部に用意すべきであったろう。さらに史料について、「読み下し文や現代語訳を付けて欲しい」という要望もあった。

こうした意見を踏まえ、今後は来館者の方々が展示内容により理解を深めてもらえるよう、さまざまな配慮に努めていきたい。

さて、今回の展示では人物をテーマとしたが、これは当館にとって初めての試みであった。公式の文書を扱う公文書館という性質上、一個人を題材とするには難しい点があることは否めない。その点、今回は福井県との共催であり、福井県の諸機関が所蔵する由利の伝記史料を紹介することが出来たことは大きい。しかし、公文書から個人の様々な活動、側面を浮かび上がらせることは可能であり、そこには案外、従来の伝記研究では見落とされてきた事柄が埋もれていることを、本展示でわずかではあるが提示できたのではないだろうか。アンケ

ートでは「今後希望する企画展のテーマ」について、「歴代の東京府知事、東京市長に関する展示の開催」という声が多く聞かれた。

本展示が、今後の企画展に新たな選択肢を増やすこととなったとしたら幸いである。

※１　由利公正は、文政 12 年（1829）三岡家に誕生し石五郎と命名され、文久２年（1862）11 月に八郎と改名、ついで慶応４年（1868）８月に公正と改め、明治３年（1870）８月、旧姓の由利に復した。したがって、三岡石五郎、三岡八郎、三岡公正、由利公正の名を用いたことになるが、本稿では便宜上、由利公正で統一した。

※２　本稿を執筆中に、坂本龍馬が暗殺される５日前（慶応３年 11 月 10 日）に、福井藩重臣中根雪江に宛て由利の出仕を促す書翰が発見されたとの報道があった。同書翰中には「三岡八郎兄の御上京御出仕の一件ハ急を用する事に存候得ハ、何卒早々御裁可あるへく奉願候、三岡兄の御上京か一日先に相成候得ハ新国家の御家計御成立か一日先に相成候と奉存候」との記述があり、龍馬が由利を新政府の財政担当者にすべく奔走していた様子がうかがえる。（「坂本龍馬『新国家』専心　暗殺５日前の書簡発見」『毎日新聞』2017 年１月 13 日）

※３　「由利公正免職問合の義相違無き旨回答　史官より東京府　９月２日」『壬申正院御用留』（東京府文書　請求番号６０５．Ｄ５．１４）

※４　「由利知事７月 19 日被免本官候旨史官より御達の段申進　書記掛より諸掛へ　明治５年９月」『御布告留〈出納課〉』（東京府文書　請求番号６０５．Ｄ８．０１）

※５　『明治十一年東京府統計表』（明治 12 年）

※６　本展示のⅡ部では、由利が東京府知事を務めていた明治４年の「永福東京御絵図」上に、東京府庁や由利の居宅などゆかりの地を示した床貼りパネルを設置した。「東京都内にある由利公正ゆかりの地」はこれに対応するもので、現在の地図上に由利のゆかりの地を示したものである。

〈参考文献〉

三岡丈夫編『由利公正伝』（光融館　大正５年）
由利正通編『子爵由利公正伝』（岩波書店　昭和 15 年）
三上一夫、舟澤茂樹編『由利公正のすべて』（新人物往来社　平成 13 年）
藤森照信「開化の街づくり―銀座煉瓦街計画」『明治の東京計画』（岩波書店　昭和 57 年）１-44 頁
東京都編『都史紀要３　銀座煉瓦街の建設』（昭和 30 年）

展 示 史 料 一 覧

＊福井県出展史料

番号	展示史料名	作成年月日	簿冊名・請求番号	所蔵館
1	＊後藤象二郎宛て坂本龍馬書簡（複製）	慶応３年（1867）11 月		高知県立坂本龍馬記念館保管
2	＊徴士参与職の辞令（複製）	慶応３年（1867）12 月 18 日		福井県立歴史博物館
3	＊御用金穀取扱之儀取締の沙汰書（複製）	慶応３年（1867）12 月 23 日		福井県立歴史博物館
4	＊由利公正　議事之体大意（複製）			福井県立図書館
5	＊東京府知事辞令（複製）	明治４年（1871）７月 23 日		福井県立歴史博物館
6	渋沢栄一施金願の件	明治５年（1872）３月５日	『京橋以南類焼一件』604.B2.04（原本別置）	東京都公文書館
7	東京府知事履歴書	明治元年～ 31 年（1868 ～ 1898）	『東京府知事履歴書』634.C7.15（原本別置）	東京都公文書館
8	由利知事公より来翰書記より達	明治５年（1872）	『達掛合留・乾〈運上所〉』605.D6.14	東京都公文書館
9	東京府前知事由利公正７月 19 日免本官の旨問合の義即刻回報　東京府より正院　９月２日	明治５年（1872）	『壬申正院御用留』605.D5.14	東京都公文書館
10	由利知事邸宅焼失の届	明治５年（1872）	『壬申正院御用留』605.D5.13	東京都公文書館
11	建築局へ自費官築願済書類可相廻旨掛合　願人姓名左に　西村遊次郎後見中沢彦七　林西二後見林和一　島田八郎左衛門店預り人橋爪治兵衛　栗田喜兵衛　石川兼五郎　由利公正　渋谷定兵衛　後藤四郎　松沢八右衛門　平野富二　大倉喜八郎　大倉周三　早川喜兵衛	明治５年（1872）	『一等煉化家屋払下願〈庶務課〉明治５～６年』606.D8.10	東京都公文書館
12	錦絵　神田昌平橋模様換掛替眼鏡橋要路光景之真図		い　１７	東京都公文書館
13	『昌平橋書類・第１号〈土木課〉明治８年～明治 13 年』	明治８年～明治 13 年（1875 ～ 1880）	611.B7.03	東京都公文書館
14	山田幾右衛門外 13 名合併新架橋願　７月 29 日	明治８年（1875）	『昌平橋書類・第１号〈土木課〉明治８年～明治 13 年』611.B7.03	東京都公文書館

展示パネル一覧

＊福井県出展史料

	番号	パネル名	パネル画像名	所蔵提供
Ⅰ 維新政府での活躍	1	参与時代の由利公正	参与時代の由利公正（三岡丈夫『由利公正伝』より）	国立国会図書館ウェブサイト
	2	＊人物相関図		福井県立図書館
	3	師 横井小楠	横井小楠肖像 (「近代日本人の肖像」より)	国立国会図書館
	4	坂本龍馬の推挙	坂本龍馬肖像（「近代日本人の肖像」より）	国立国会図書館
	5	維新政府に出仕	太政官より福井藩への達書	福井県立歴史博物館
	6	五箇条の御誓文の起草過程	福岡孝弟　会盟	福井県立図書館
			木戸孝允　誓	宮内庁書陵部
			有栖川宮幟仁親王御筆　五箇条御誓文	宮内庁書陵部
	7	太政官札	国立印刷局　お札と切手の博物館蔵	国立印刷局　お札と切手の博物館
Ⅱ 東京府知事由利公正	8	東京府知事由利公正	東京府知事由利公正（三岡丈夫『由利公正伝』より）	国立国会図書館ウェブサイト
	9 由利府政下の東京	年表		東京都公文書館
		府下に邏卒を設置	太政官より東京府へ府下取締として邏卒三千人備置の旨達『御沙汰書抜萃　書記課』	東京都公文書館
		招魂社境内でサーカス興行	招魂社境内フランス大曲馬図	国立国会図書館ウェブサイト
			26 日より曲馬興行可致旨スリエより申出に付御届『御用留・別手組・全〈(東京運上所)〉』	東京都公文書館
			佛蘭西国曲馬スリヱ	国立国会図書館ウェブサイト
		東京銀行設立を計画	府下の者共銀行出願云々（再願）『壬申正院御用留』	東京都公文書館
			錦絵　東京名所之内海運橋第一国立銀行之光景	東京都公文書館
		旧武家地に新たな町名をつける	明治三年 分間 懐宝東京絵図	東京都公文書館
			東京御絵図	東京都公文書館
	10	銀座煉瓦街計画～不燃都市構想～	『建築事務御用留 甲（第一種）』	東京都公文書館
	11	家屋建築方図面 ウォートルス原文	家屋建築方図面 ウォートルス原文『建築事務御用留 甲（第一種）』	東京都公文書館
	12	明治初期ノ銀座街	明治初期ノ銀座街『東京府写真帖』（一）	東京都公文書館
	13	銀座街	銀座街　建築学会編『明治大正建築写真聚覧』	国立国会図書館ウェブサイト
	14	Main Street, Tokio		The New York Public Library
	15	錦絵　東京銀座新栽花王満開之図		東京都公文書館
	16	幸橋内東京府庁総地絵図		東京都立中央図書館
	17	大蔵大輔井上馨との対立	井上馨肖像（「近代日本人の肖像」より）	国立国会図書館
	18	岩倉使節団に参加	全権大使随行の辞令	福井県立歴史博物館
	19	欧米視察中の由利公正	欧米視察中の由利公正（三岡丈夫『由利公正伝』より）	国立国会図書館ウェブサイト
	20	府知事免官	府知事免官の辞令	福井県立歴史博物館
	21	由利公正肖像画		東京都公文書館
Ⅲ 東京府文書にみる由利公正	22	東京府文書にみる由利公正	『東京府御開書留〔東京府開設書〕』	東京都公文書館
	23	公正の呼び名～「きみまさ」か「こうせい」か～	永代借地権抹消に関する件〔京橋区明石町 51 番地〕《キャザリン．キャロライン．ブース》『雑件』	東京都公文書館
	24	自邸も煉瓦造りに	建築局へ自費官築願済書類可相廻旨掛合　願人姓名左に　西村遊次郎後見中沢彦七　林西二後見林和一　島田八郎左衛門店預り人橋爪治兵衛　栗田喜兵衛　石川兼五郎　由利公正　渋谷定兵衛　後藤四郎　松沢八右衛門　平野富二　大倉喜八郎　大倉周三　早川喜兵衛『一等煉化家屋払下願〈庶務課〉明治５～６年』	東京都公文書館
	25	架橋に献金	由利公正外３人より架橋献金の件『建築事務諸願往復〈庶務課〉』	東京都公文書館
	26	鉄鉱事業の経営	銑試験之儀届　木挽町２丁目由利公正『回議録・第 19 類・諸願伺届・2 冊ノ内 2・自 7 月至 12 月〈勧業課〉』	東京都公文書館
	27	牧場経営	由利公正牧牛の為地所拝借願『既決簿・第 4 号・上局取決之部〈租税課〉』	東京都公文書館
	28	赤坂区会議長就任	赤坂区会議事録『第 1 種　(区会議録)・決算報告議事録・第 1 課〔第 1 種・明治 22 年度区会議録・決算報告及議事録・第一課〕』	東京都公文書館

※本報告書の著作権は東京都にあります。「私的使用のための複製」や「引用」など著作権法上認められた場合を除き、無断で複製・転用することはできません。